

1 台風や集中豪雨など多発する水災害

9月26日、室戸台風・枕崎台風と共に昭和に甚大な被害をもたらした伊勢湾台風から50年が経過する。当時の災害の爪痕は癒えつつあるが、近年、地球温暖化による異常気象などの影響も伴い、日本各地においての水害被害は絶えない。今年も、台風9号や11号の影響で、豪雨が日本各地を襲った。千葉県内では、今年8月9日に1時間に68ミリの雨量を観測。千葉市内においても床上浸水30軒以上、道路冠水が約180カ所発生した。その後の台風11号による暴風や豪雨により、負傷者も発生。河川の氾濫には至っていないにせよ、今後も台風や豪雨による水害に、より一層の対策が必要だ。



利根川は、数多くの流入支川を有しているが、近年、実は新たな問題を抱えている。それはゴミ問題。豪雨による増水後、上流から流されてきたゴミで利根川沿岸域がびっしりと覆われてしまうのだ。ゴミはビニール袋や紙ゴミなどの小さなものから、冷蔵庫、テレビなどの粗大ゴミまで種類や大きさはさまざま。ゴミの撤去作業は管理者である国や自治体がおこなっており、多大な労力と税金を撤去に費やしている。昨今、利根川流域でのゴミの不法投棄も多発。住民によるボランティア清掃や、利根川的美観を守るという啓蒙運動などを通じて、国土交通省では、現在この問題解決に取り組んでいる。

4 頭の痛いゴミ問題

台風9号によるゴミの漂着

「自助」意識の必要性
昨年、栃木県鹿沼市で、軽乗用車が水没し女性が死亡する事件が発生。この事件をうけて、栃木県では道路の冠水対策として、「冠水情報を知らせる掲示板、監視カメラなどの設置を推進している。しかし、各自治体で整備面での対策をとる一方で、やはり大切なのは、災害が起こった際の一人一人の冷静な知識と判断力だ。そこで、近年では災害時には「自分の身は自分で守ろう」という「自助」意識を高めようという試みもおこなわれている。いつ起こるともわからない災害だが、他人任せにせず、平常時から一人一人が十分なリスク認識や防災知識をたくわえておくことが、確実な防災につながるという考え方だ。

地域を災害から守るために

2 ご存じですか? 国の水害対策

現在、国土交通省では人員・設備面の両方向からの積極的な水害への対策を行っている。

テレビや新聞などの報道で、自衛隊員に混じって、青い制服を着た作業員が被災地で復旧作業を行う姿を目にしたことはないだろうか。彼らは国土交通省が主体となって組織している緊急災害対策派遣隊員(TEC・FORCE隊員)と呼ばれる派遣員。大規模な自然災害が発生した際、被災地に技術面で支援を行う技術スタッフだ。平成21年7月中国・九州北部豪雨の山口県防府市や「台風9号」の集中豪雨で家屋倒壊などの被害のあった兵庫県佐用郡佐用町に派遣され、現地の被災状況調査や早期復旧に向けた支援活動に携わっていたのは記憶に新しい。また、8月11日に発生した「駿河湾を震源とする地震後の二次災害防止のため、震度6弱を観測した静岡県伊豆市に「土砂災害危険箇所点検緊急支援チーム」を派遣している。参加した職員は、「衣装ケースに必要なもの一式準備しており、災害時にはいつでも行けるように準備している。国土交通省の看板を背負って仕事をしたいので、地元の人に安心感を与えられたい」と語った。一方で、人員と共に災害用ヘリコプターや排水ポンプ車、照明車、衛星通信車などの災害対策資機材の派遣もおこなっている。

3 現役の歴史的建造物「横利根閘門」

江戸時代、利根川の東遷以後、利根川による氾濫に脅かされてきた過去を持つ千葉は、水害対策の歴史も長い。それだけに、治水施設の中には歴史的価値が高い建造物も存在する。なかでも名高いのが、茨城県と千葉県の県境付近に位置し、日本有数の歴史的建造物である横利根閘門。1914年に着工し、1921年の完成以降、開門として利根川と横利根川をつなぎ、洪水時に利根川の水位が横利根川に逆流するのを防いだ。現在、洪水を防ぐ機能は昭和46年に完成した横利根水門に譲っているが、いまだに現役で活躍している日本最古の閘門のひとつで、2000年には国の重要文化財に指定された。

そのために、住民の水害への関心を高め、普段からできる災害への備え・取り組みを地域単位で積極的におこなっている。9月1日の防災の日前後には、住民の防災意識を高めるため、降雨体験車が関東の各地域を巡回。降雨体験車とは、最大雨量300ミリ/1時間(日本の過去最大雨量は香取の153ミリ/1時間(平成11年)の暴風雨が擬似体験できる車輦。運転席の背後付近に大きな風を起すファン、音声と映像で降雨を視覚的に体感できる86インチのマルチビジョン、天井に放水ノズルが設置され、実際の降雨に近い状態を体感できる降雨体験車に乗った住民は「強い雨は、ただ濡れるだけだ。『痛い』という感じがわかった(6歳男子)」、「乗りながら、もしも豪雨に襲われたときを想定して怖くなった。日頃からもっと災害への意識を持ちたい(30代女性)」と語った。

6 降雨体験車で災害を身近に体感



降雨体験車＝市川市防災ひろば

そのために、住民の水害への関心を高め、普段からできる災害への備え・取り組みを地域単位で積極的におこなっている。9月1日の防災の日前後には、住民の防災意識を高めるため、降雨体験車が関東の各地域を巡回。降雨体験車とは、最大雨量300ミリ/1時間(日本の過去最大雨量は香取の153ミリ/1時間(平成11年)の暴風雨が擬似体験できる車輦。運転席の背後付近に大きな風を起すファン、音声と映像で降雨を視覚的に体感できる86インチのマルチビジョン、天井に放水ノズルが設置され、実際の降雨に近い状態を体感できる降雨体験車に乗った住民は「強い雨は、ただ濡れるだけだ。『痛い』という感じがわかった(6歳男子)」、「乗りながら、もしも豪雨に襲われたときを想定して怖くなった。日頃からもっと災害への意識を持ちたい(30代女性)」と語った。



平成21年9月4日撮影

定点観測水の郷さわら①
香取市佐原広域交流拠点「水の郷さわら」の水辺交流センター周辺。平成22年春に完成予定。完成後は、道の駅や防災施設などが設置される予定。

保存版! 家庭でできる防災(水害)対策

日頃から気象情報に関心を持ちましょう。

国土交通省 川の防災情報

レーダー雨量、テレメータ(雨量・水位・水質・積雪)、気象警報・注意報、洪水予報、水防警報、ダム放流通知などの河川予警報、都道府県河川情報などのコンテンツがあり、インターネットを利用したリアルタイム情報提供をおこなっています。

携帯電話から <http://i.river.go.jp/>

パソコンから <http://www.river.go.jp/>



家の周辺の状況、避難場所を把握しておきましょう。

洪水ハザードマップ

お住まいの市町村・地区・町会などで配布しています。また、市町村のホームページからダウンロードできる場合もあります。洪水ハザードマップ作成済の千葉県内市町村一覧(平成21年8月20日現在) 我孫子市 いすみ市 市川市 一宮町 原市 印西市 印旛村 大多喜町 柏市 勝浦市 香取市 鎌谷市 鴨川市 木更津市 君津市 栄町 佐倉市 山武市 匝瑳市 袖ヶ浦市 千葉市 銚子市 長生村 東庄町 流山市 成田市 野田市 船橋市 松戸市 南房総市 本埜村 横芝光町 四街道市

国土交通省ハザードマップポータルサイト <http://www1.gsi.go.jp/geowww/disapotal/index.html> 全国の市町村のハザードマップを見ることができます。

非常持ち出し品の準備・点検をしておきましょう。

- チェックリスト
- 水 非常食 懐中電灯 携帯ラジオ(予備電池)
- 貴重品 医薬品(救急セット) 衣類等 雨具
- ティッシュペーパーなどの日用品 軍手・手袋

集中豪雨や台風の接近に備え

極力外出を控えましょう。物干し竿など飛ばされそうなものは、室内に入れるか、固定しましょう。ベランダの排水口を再点検し、清掃をしましょう。大雨によって、窓の隙間から雨水が吹き込まないように、敷居に雑巾などを詰めておきましょう。

もしも災害が起こった際の安否の確認

NTT災害用伝言ダイヤル「171」

災害発生時(震度6弱以上の地震など)にはNTTの災害用伝言ダイヤルサービスが稼働します。

伝言の録音方法	171→1→(0000)00-0000→ 伝言を伝える(30秒以内) 被災地のかたは自宅の電話番号、被災地以外のかたは被災地のかたの電話番号を
伝言の再生方法	171→2→(0000)00-0000→ 伝言を伝える(30秒以内) 被災地のかたは自宅の電話番号、被災地以外のかたは被災地のかたの電話番号を

携帯電話会社の災害用伝言板サービス

NTTドコモ、au、ソフトバンク等の携帯電話会社では大規模災害時に「災害用伝言板サービス」を行っています。

各社のトップメニューから「災害用伝言板」を開く
伝言を登録する場合→「登録」を選択して伝言を入力する
伝言を確認する場合→「確認」を選択して被災地のかたの携帯電話番号を入力

市町村長の出す避難勧告・指示には速やかに従いましょう。

洪水時の避難方法

- 1 履き物 裸足、長靴は禁物。ひもで締められる運動靴がよいです。
- 2 避難方法 ロープでつながってはくれないようにお互いにロープを結んで避難して下さい。特に子供からは目を離さないようにして下さい。
- 3 歩ける深さ 歩ける深さは、男性で約70cm、女性で約50cmで、ひざ上まで水につかると避難は危険。また、流れが速いと20cm程度で歩行が不能になり、用水路などに転落のおそれがある場合には10cm程度でも避難は危険。以上の水位を超える場合は、避難所を目指すより、建物の2階などの高所に移動し、救援を待ちましょう。
- 4 足元に注意 水面下にはマンホール、側溝などの危険が潜んでいます。長い棒を杖がわりにして安全を確認しながら歩くようにして下さい。
- 5 子供や高齢者の安全確保 高齢者や病人などは背負い、幼児は浮き袋、乳児はベビーバスを利用して安全を確保して下さい。

千葉日報社では下記の意見募集をおこないます。

- 「TEC-FORCE」をご存じでしたか?
A 知っていた
B 知らなかった
- 降雨体験車をご存じでしたか?
A 知っていた
B 知らなかった
- 文中にわかりにくい用語はございましたか?
A なかった
B あった
- 水災害対策について他にどのような情報をお知りになりたいですか?
()

住所、氏名、電話番号をご記入の上は、かき、FAX、またはEメールにて千葉日報社9/20アンケート係までお送りください(9月末日必着)。

〒104-0061 東京都中央区銀座4-10-12 銀座サマリヤビル4F
FAX 03-3545-1450
Eメール tokyo@chibanippo.co.jp

ご応募いただいた方の中から抽選で10名の方にクオカード3000円分をお送りいたします。発表は発送をもって代えさせていただきます。